

# 遠隔授業における教員アンケート結果

## 4. アンケート実施概要

実施期間：2020年8月3日（月）～8月21日（金）

調査対象：全講師（686人）

回答人数：188人

回収率：27.4%

## 5. 回答結果

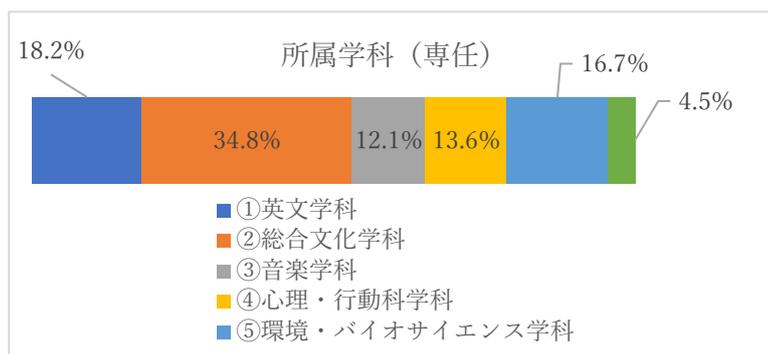
【1】専任・非常勤を選択してください

回答	比率(%)
①専任教員	35.1%
②非常勤講師	64.9%



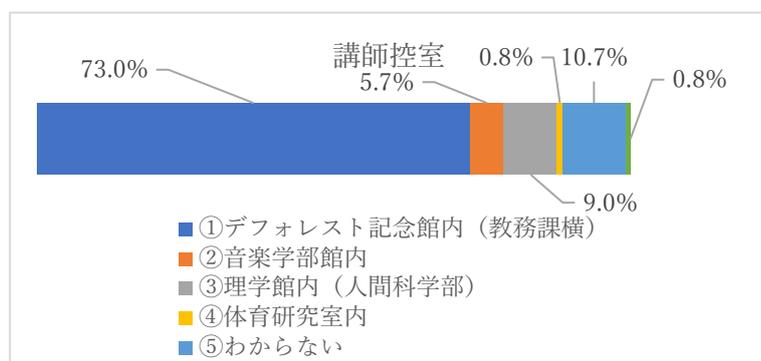
【2】専任教員の方に質問です。所属学科を選択してください。

回答	比率(%)
①英文学科	18.2%
②総合文化学科	34.8%
③音楽学科	12.1%
④心理・行動科学科	13.6%
⑤環境・バイオサイエンス学科	16.7%
⑥その他	4.5%



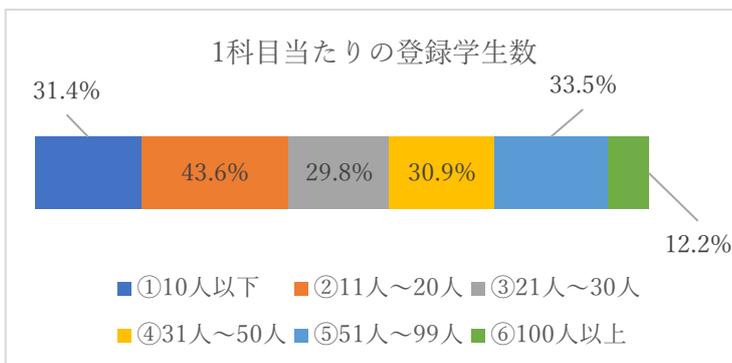
【3】非常勤講師の方に質問です。メールボックスをお持ちの講師控室はどこにありますか。

回答	比率(%)
①デフォレスト記念館内（教務課横）	73.0%
②音楽学部館内	5.7%
③理学館内（人間科学部）	9.0%
④体育研究室内	0.8%
⑤わからない	10.7%
無回答	0.8%



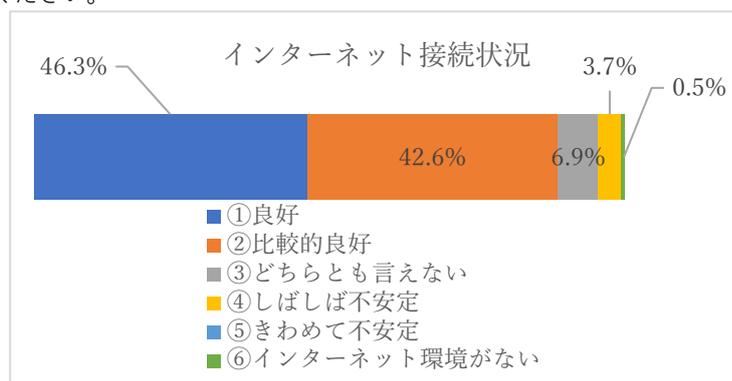
【4】1科目当たりの登録学生数を選択してください。（複数科目の授業をご担当の方は、複数回答可）

回答	比率(%)
①10人以下	31.4%
②11人～20人	43.6%
③21人～30人	29.8%
④31人～50人	30.9%
⑤51人～99人	33.5%
⑥100人以上	12.2%



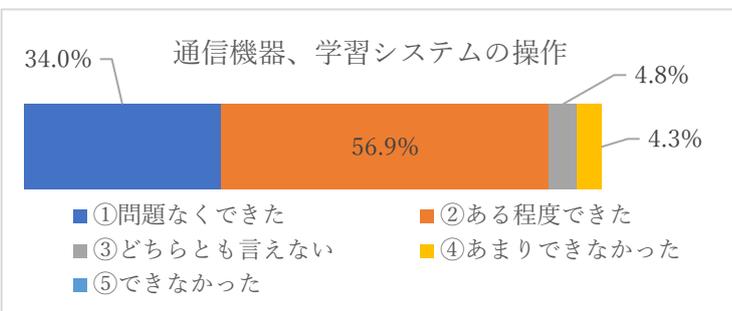
【5】ご自宅等のインターネット接続状況について選択してください。

回答	比率(%)
①良好	46.3%
②比較的良好	42.6%
③どちらとも言えない	6.9%
④しばしば不安定	3.7%
⑤きわめて不安定	0.0%
⑥インターネット環境がない	0.5%



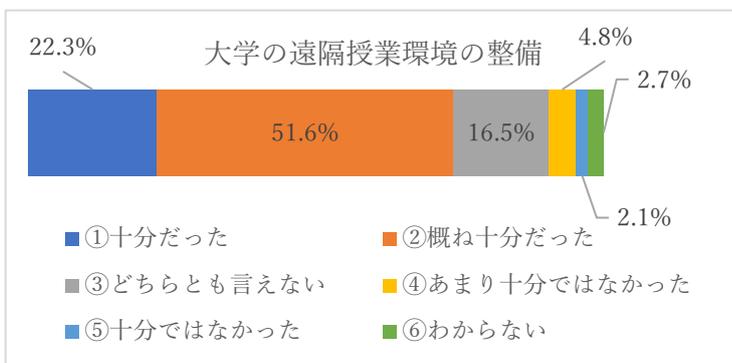
【6】通信機器や学習システムの操作は円滑にできましたか。

回答	比率(%)
①問題なくできた	34.0%
②ある程度できた	56.9%
③どちらとも言えない	4.8%
④あまりできなかった	4.3%
⑤できなかった	0.0%



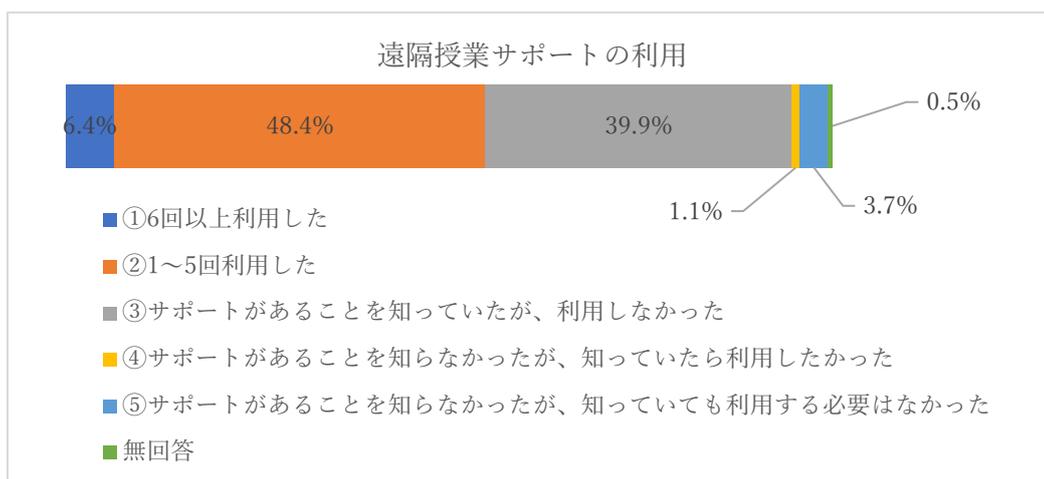
【8】大学の遠隔授業環境の整備（設備やプラットフォーム）や支援体制は十分でしたか。

回答	比率(%)
①十分だった	22.3%
②概ね十分だった	51.6%
③どちらとも言えない	16.5%
④あまり十分ではなかった	4.8%
⑤十分ではなかった	2.1%
⑥わからない	2.7%



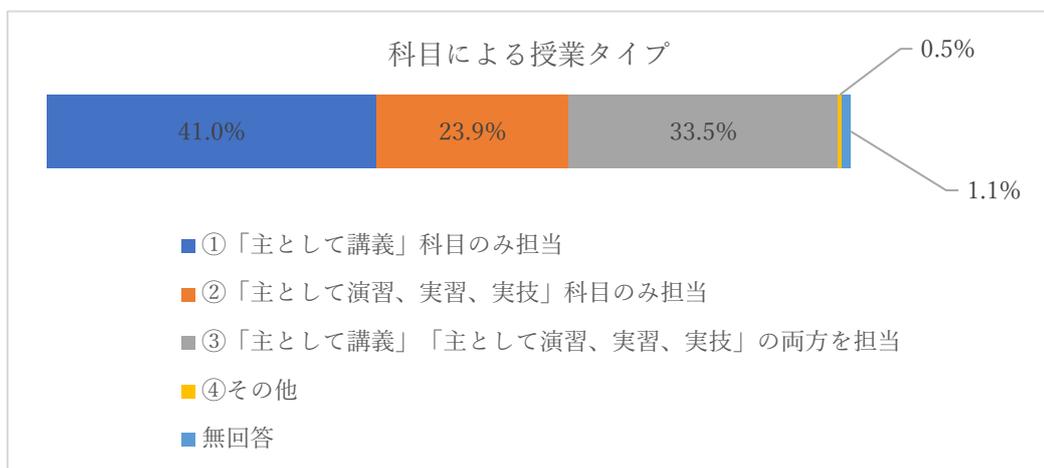
【10】 遠隔授業サポート（遠隔授業を行う教員の ICT 面でのサポートを行う部門）を利用されましたか。

回答	比率(%)
①6 回以上利用した	6.4%
②1～5 回利用した	48.4%
③サポートがあることを知っていたが、利用しなかった	39.9%
④サポートがあることを知らなかったが、知っていたら利用したかった	1.1%
⑤サポートがあることを知らなかったが、知っていても利用する必要はなかった	3.7%
無回答	0.5%



【11】 ご担当科目のタイプは「主として講義」と「主として演習、実習、実技」のどちらに近いですか。

回答	比率(%)
①「主として講義」科目のみ担当	41.0%
②「主として演習、実習、実技」科目のみ担当	23.9%
③「主として講義」 「主として演習、実習、実技」の両方を担当	33.5%
④その他	0.5%
無回答	1.1%



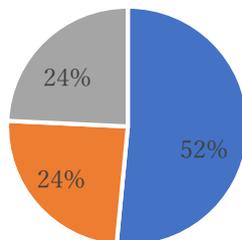
【12】 遠隔授業の方法を以下の3タイプに分類した場合、ご担当科目の授業方法はどれに当てはまりますか。

それぞれの科目数をお答えください。併用されている場合は、主たる方式としてお答えください。

主に同時双方向型	主にオンデマンド講義配信型	主に資料提示・課題提出型	合計科目数
376 科目	177 科目	177 科目	730 科目

### 遠隔授業の方法

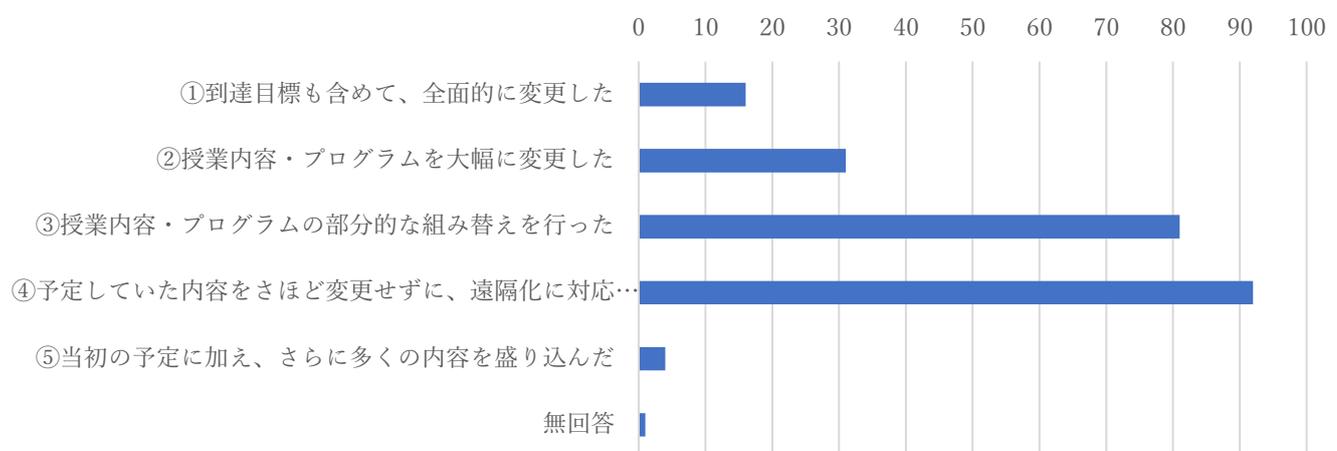
- 主に同時双方向型
- 主にオンデマンド講義配信型
- 主に資料提示・課題提出型



【13】 遠隔授業への変更に対応するために、当初の「目的と到達目標」「授業概要」「授業計画」等を大きく変更されましたか。

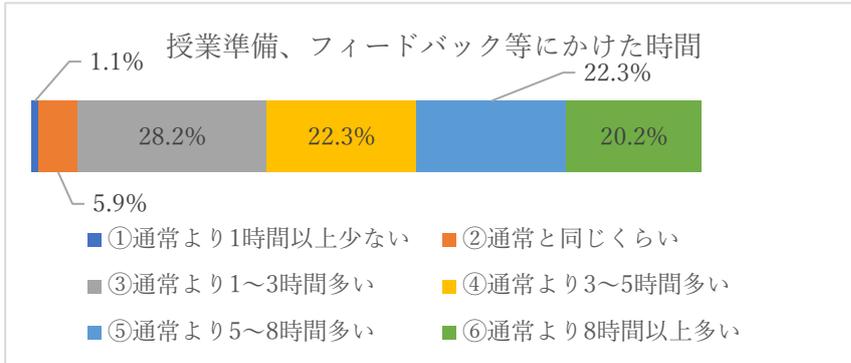
回答	人数 (人)
①到達目標も含めて、全面的に変更した	16
②授業内容・プログラムを大幅に変更した	31
③授業内容・プログラムの部分的な組み替えを行った	81
④予定していた内容をさほど変更せずに、遠隔化に対応した	92
⑤当初の予定に加え、さらに多くの内容を盛り込んだ	4
無回答	1

### 計画の変更



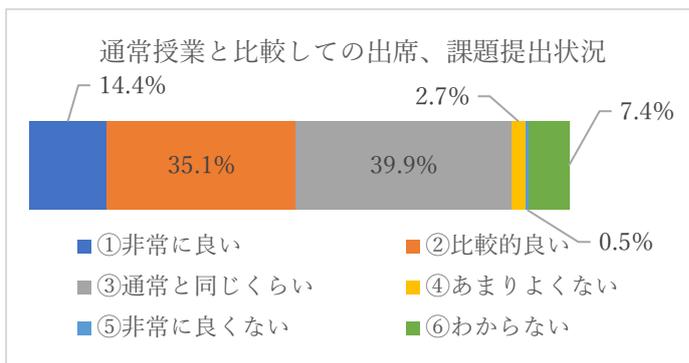
【14】 通常授業と比較して、1科目あたりの授業準備やフィードバック等に平均どのくらいの時間をあてましたか。

回答	比率(%)
①通常より1時間以上少ない	1.1%
②通常と同じくらい	5.9%
③通常より1～3時間多い	28.2%
④通常より3～5時間多い	22.3%
⑤通常より5～8時間多い	22.3%
⑥通常より8時間以上多い	20.2%



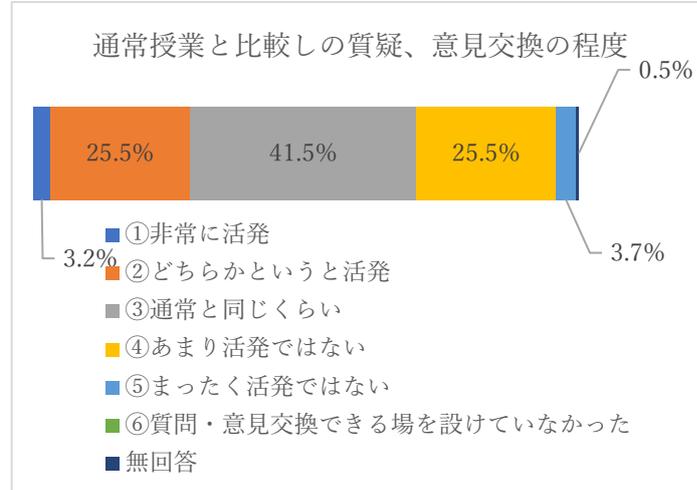
【15】 通常の対面授業と比較して、学生の出席や課題提出状況はどうでしたか。

回答	比率(%)
①非常に良い	14.4%
②比較的良好い	35.1%
③通常と同じくらい	39.9%
④あまりよくない	2.7%
⑤非常に良くない	0.5%
⑥わからない	7.4%



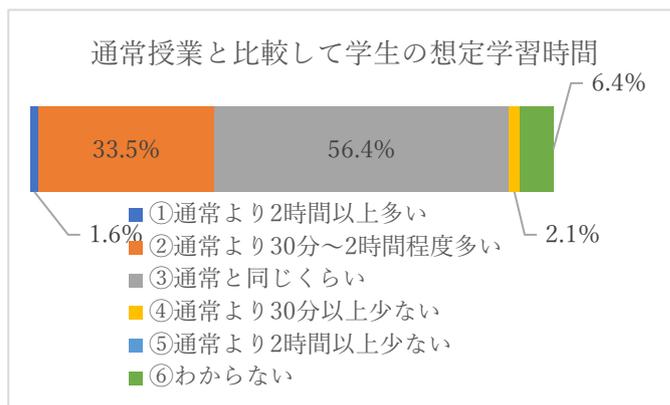
【16】 学生と教員、あるいは学生間の質疑や意見交換は通常授業に比べて、どの程度行われましたか。

回答	比率(%)
①非常に活発	3.2%
②どちらかという活発	25.5%
③通常と同じくらい	41.5%
④あまり活発ではない	25.5%
⑤まったく活発ではない	3.7%
⑥質問・意見交換できる場を設けていなかった	0.0%
無回答	0.5%



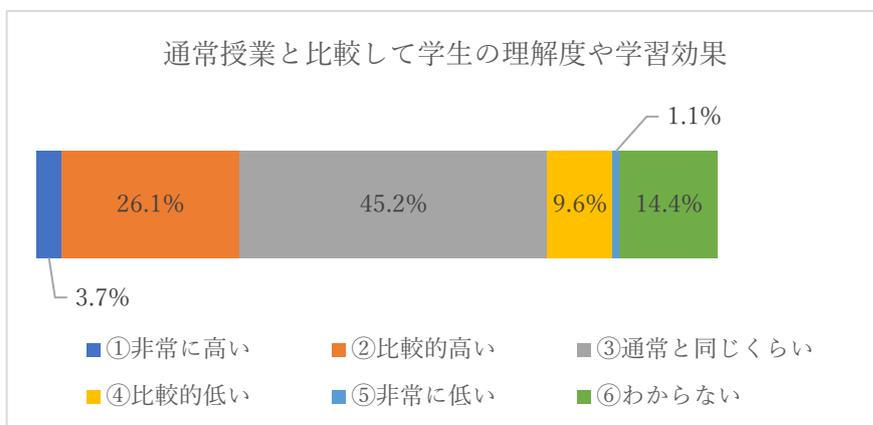
【17】授業視聴、予習・復習、課題、自習等を含めた学生の想定学習時間は、通常授業で学生に求めている学習時間と比較して、1コマあたりどの程度ですか。

回答	比率(%)
①通常より2時間以上多い	1.6%
②通常より30分～2時間程度多い	33.5%
③通常と同じくらい	56.4%
④通常より30分以上少ない	2.1%
⑤通常より2時間以上少ない	0.0%
⑥わからない	6.4%



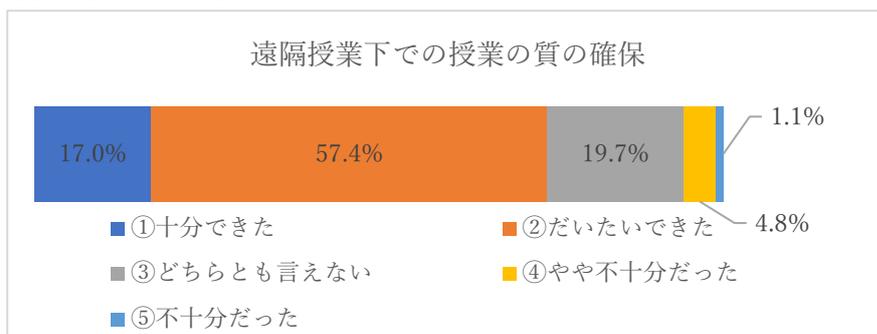
【18】通常の対面授業と比較して、学生の理解度や学習効果はどうでしたか。

回答	比率(%)
①非常に高い	3.7%
②比較的高い	26.1%
③通常と同じくらい	45.2%
④比較的低い	9.6%
⑤非常に低い	1.1%
⑥わからない	14.4%



【19】総合的に見て、遠隔授業という条件下での授業の質は確保できましたか。

回答	比率(%)
①十分できた	17.0%
②だいたいできた	57.4%
③どちらとも言えない	19.7%
④やや不十分だった	4.8%
⑤不十分だった	1.1%



## 6. 記述

◆大学の遠隔授業環境の整備や支援体制が十分でなかった理由

○費用

- ・オンライン授業対応のハード面、ソフト面の準備に関する費用負担があった
- ・必要な費用を誰が支払うか明確でなかった

○その他

- ・オンライン授業に関する説明や準備期間、サポートが不十分に感じた
- ・指定のシステムの操作方法や説明が分かりにくかった
- ・学生の通信環境が分からないままスタートしたため教員への負担が大きかった

## ◆学期中に授業方法等を改善した点

### ○学生同士の交流の場

- ・授業内外で学生同士だけの交流の場を設けた。
- ・学期途中に学生の意見調査を行い授業に反映した

### ○課題

- ・課題の質と量に強弱をつけた。(課題の質量多かった翌週は簡易なものにする等)
- ・課題を Moodle 内での提出にした。(誤送信等があるため)

### ○資料の工夫

- ・学生側の環境が異なるため、アプリに依存しない動画配信に変更した
- ・配付する資料の形態、文字の形態を変更した。
- ・pdf 資料は前日までにアップし、学生が使用しているコンビニを調査してネットプリントコードを掲載
- ・Excel をダウンロードできないことがあったため、GoogleDrive を通じて資料の入手ができるようにした
- ・学生に提出物を求めるときは、見本を作成して提示した

### ○理解度チェック

- ・課題の提出回数を増やしてこまめにチェックした
- ・小テストや授業途中で確認クイズを実施した
- ・Zoom のホワイトボード機能を利用し、資料・練習・宿題を共有した
- ・毎回授業時に聞き取りを行った

### ○その他

- ・評価方法や授業形態（オンデマンド型から同時双方向）を変更
- ・対面動画や書き込み動画の比率を増加させて対面授業に近い形にした
- ・Zoom の授業を録画して学生と共有した
- ・授業で出された意見や質問とその回答を記載した QA シートを作成し、Moodle で配信した
- ・資料を事前に配布して予習を促した
- ・実技では事前に演奏を録画、提出してもらい、授業時間はそれに対するフィードバックを行った
- ・途中で休憩をはさんだ

## ◆遠隔授業化への対応にあたり、特に工夫や苦心されたこと

### ○工夫

- ・对学生（機器の違いで不利にならない授業、体調確認、コミュニケーション）
- ・通信環境（学生へのサポート、接続不具合時の情報伝達のバックアップを用意）
- ・出席（欠席学生のフォロー、通信不具合への配慮、チャットルームの活用）
- ・課題・テスト（提出に十分な時間を設ける、オンライン提出、図書館等データベースの案内、追試の実施）
- ・提示・配付資料（サイトの引用・紹介、イラストを用いる、使用データを Moodle にアップ、郵送の活用）
- ・質問（連絡手段の提示、アンケート機能の活用、丁寧なフィードバック、必要に応じて共有）
- ・授業方法（実験を Zoom 配信、飽きない話し方）
- ・個別対応をできるだけ避ける

### ○苦心

- ・システムの利用方法の習得やコンテンツ作成、資料をアップするのに時間がかかった
- ・オンライン授業での学生対応（反応がつかめない）
- ・育児をしながらの準備や授業
- ・パソコン・通信環境やパソコンスキルが学生により異なるなかで、どのように公平性を保つか

- ・課題量
- ・代理視聴・回答への対応

#### ◆遠隔授業を通して、良かった点

- ・自身（授業）について  
（授業を見直す機会になった、準備に時間をかけ授業の完成度があがった、記録として残る、オンライン上の情報の共有が簡単、ITスキル向上、通勤時間の節約、感染の危険から免れた、気候に左右されず授業ができた、保護者の意見が聞けた）
- ・对学生について  
（一人ひとりの考えや意見を聞きそれに応答できた、課題へのフィードバックが行いやすい、対面では見えなかった潜在的な能力に気づくことができた）
- ・学生についての印象  
（予習して講義に臨んでいた、出席率が高かった、質問や積極的な参加が増えた、自分で新たな学びの方法を深めていた、ITスキルが向上、何をすべきかを明確にして学習していた、オンデマンドで復習していた、自分の演奏を録画することで客観的に分析して癖に気付く機会となった）
- ・遠隔の外部講師に授業を依頼できた

#### ◆遠隔授業を通して、悪かった点

##### ○環境

- ・情報系演習科目において各自のPC環境の違いにより説明が合致しない例があった
- ・通信環境の悪さによるトラブル
- ・大学の設備や資料が使えなかった

##### ○コミュニケーション

- ・学生との雑談時間や無駄にも思えるささいなやりとりの場が失われた
- ・雰囲気や感触といった非言語的な情報をつかみにくい
- ・理解度や心理面の把握・フォローがしにくい
- ・教員と学生、学生間、教員間での交流・情報交換があまりできなかった
- ・新しい授業方法（Zoomのディスカッションなど）に戸惑っている学生が多かった
- ・フォーラム投稿で情報共有を呼び掛けても、個別に連絡をとりたい学生が多い

##### ○演習、実習等

- ・学生同士でグループワークやペアーワークをさせることがあまりできなかった
- ・実際に体験することができなかった
- ・双方向遠隔授業で発生するタイムラグにより演奏が困難
- ・理解の遅い学生対応に時間がかかり、早くできた学生が時間を持て余すことがあった

##### ○授業準備等

- ・授業準備が非常に大きな負担だった

##### ○テスト

- ・通常の形式でテストを実施できず、客観的な評価を行う手法が取りづらい
- ・試験を行う場合は、監視ができないため、資料持ち込みの試験しかできなかった

##### ○連絡

- ・メールでのやりとりは硬い内容になりがち
- ・メッセージや質問の対応に追われた

- ・どこに連絡がきているのかの確認が難しい

#### ○体調

- ・長時間のパソコン作業は目や腰への負担が大きく、体調への影響があった
- ・多くの課題により、学生の睡眠時間が削られてしまい、心身が不安定な状況になってしまっている点

#### ○その他

- ・提供している資料がネット等に流出しないか心配

## 6. 教員アンケートを受けての考察

通常とは異なる形での授業準備・運営に、教員の側も多大な時間と労力を費やしたことがわかります。授業目標の達成のためにプログラムを変更したり、学期途中で学生の声も取り入れつつ様々な変更をくわえた教員も多くいました。一学期間をとおして試行錯誤で作りながら走るといった状況だったようです。そうしたなかでも、多くの教員が学生たちの熱心な学習態度にも支えられ、通常授業と同程度かそれ以上の効果を上げることができました。遠隔授業として求められる質はおおむね確保されたという回答が、多数を占めました。

授業の具体的な工夫についての自由記述では、授業コンテンツや提供方法のほか、個別指導やコミュニケーション、フィードバック方法についての記載が多くありました。遠隔という条件下で、いかに学生の学びに寄り添った授業を展開するかに腐心してきたようです。

遠隔授業へのチャレンジは「これまでの授業を丁寧に見直せた」「新しい授業形態・方法の可能性が広がった」と肯定的に受け止められる一方で、「過重な負担で研究時間がとれなかった」との声もあります。教員負担と授業の質向上のための組織的努力との折り合いどうつけていくかが、今後の課題です。